

2. 2期区域について

(i) 都心における「みどり」の規模

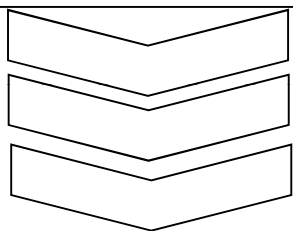
みどりの空間の規模比較

都市内の緑地空間の事例	0.4ha 汐留シティセンター（敷地2.0ha）【東京】
	1.2ha なんばパークス（敷地3.7ha）【大阪】
	2.1ha 大阪アメニティパーク（敷地7.4ha）【大阪】
	※隣接する毛馬桜之宮公園の一部（1.9ha）との合計
	2.5ha 六本木ヒルズ（敷地8.9ha）【東京】
	3.0ha ブライアントパーク（敷地3.9ha）【ニューヨーク】
	3.6ha アクロス福岡（敷地1.4ha）【福岡】
	※屋上緑化（0.5ha）と隣接する天神中央公園（3.1ha）との合計
	4.0ha 東京ミッドタウン（敷地10.2ha）【東京】
	※隣接する檜町公園（1.6ha）との合計
	8.8ha 新宿中央公園【東京】 9.7ha 靱公園【大阪】 10.6ha 中之島公園【大阪】 16.2ha 日比谷公園【東京】 うめきた地区 先行開発区域（約3.1ha） + 2期区域（約11.5ha） + うめきた地区周辺の緑地等 約1.7ha

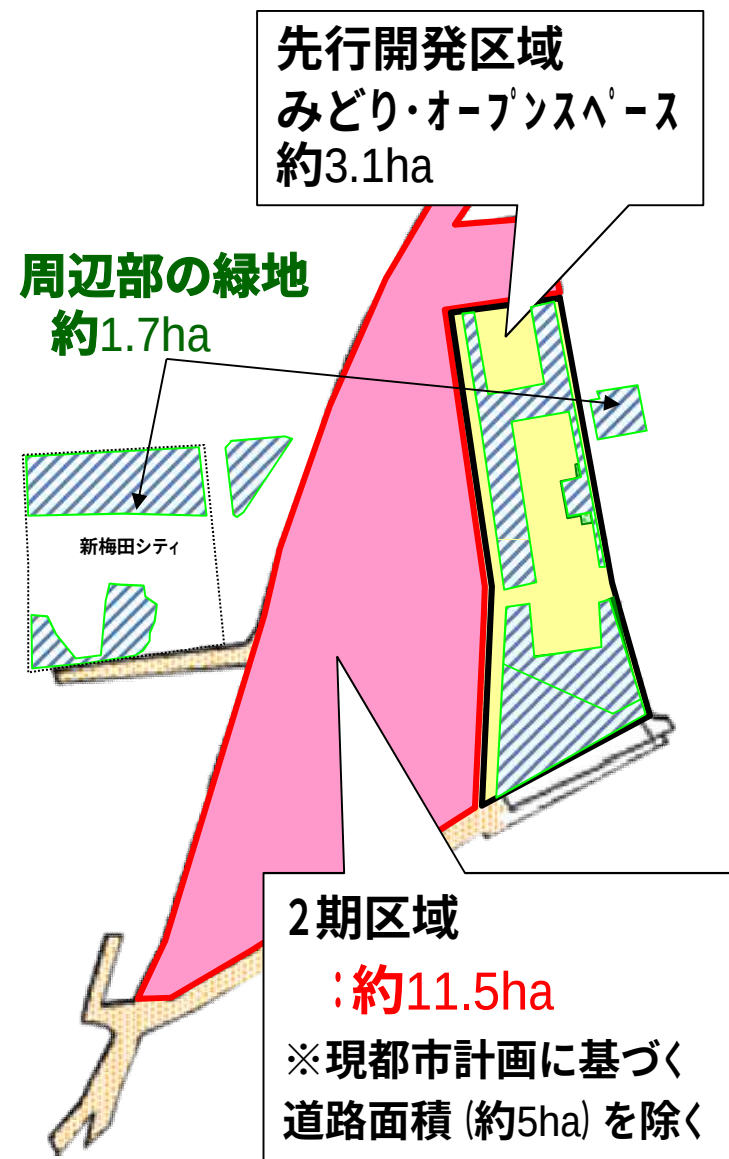
2. 2期区域について

(ii) 2期区域における「みどり」の考え方

先行開発区域では、約3.1haの
緑・水・オープンスペースを創出
している



2期区域全体を「みどり」で被い、
大阪駅前にシンボリックで、
訪れる人々が実感できる「みどり」
空間を創出する



2. 2期区域について

防災 導入すべき防災機能の検討

※関西経済連合会「うめきた専門委員会」資料 (H25.3) より抜粋

○うめきたに導入される建物・施設や、必要な都市機能の具体化に合わせ、最適かつ最新のシステムの検討・導入が必要。
○省エネルギーや環境負荷低減のために最先端の技術が導入されるとともに、災害時には地域の司令塔や、代替として機能する高度なBCP対応可能エリアの実現のため、電気・ガス・通信を組み合わせた強いインフラを構築。



2. 2期区域について

うめきた2期開発の実現により、
開発効果を周辺へ波及させる

- うめきたが緑のネットワーク
拠点
- 周辺への開発効果の波及

